

元気な高齢者にゲームや体操、 昼食を楽しめる「広場」を提供

公益社団法人
仲善広域シルバー人材センター

(香川県)

仲善広域SCは平成21年度から、高齢者を対象に「仲善広場」を運営している。同広場では、地元警察署や消防署による講話をはじめ、保育園との交流、会員による小物作りや健康体操の指導を行い、昼食時には会員の手作り料理を提供している。介護予防を目的としたこの事業は、高齢者に交流機会を提供し、健康増進、生きがいの創出につながるものとして、自治体や参加者から評価されている。

介護予防を目的とする 高齢者の居場所づくり

仲善広域SCは平成21年度、高齢者の居場所と地域交流の場として「仲善広場」(以下、広場)を開設した。その思いを、佐藤安正常務理事兼事務局長は次のように説明する。

「それまで当センターは、市町や関連団体等と連携して、介護支援を望む高齢者に、要望に沿ったサービスを提供してきました。しかし、介護予防の観点から、自立支援に重点を置いた事業も必要と考え、広場の開設を決定しました。自治体は、高齢者の居場所づくりが手が回らない状況です。この事

業はその部分をカバーすると考えています」

また、会員の就業機会の拡大とともに、地域の高齢者たちが自宅で元気に、より長く暮らせるよう支援する事業を行って、会員の社会参加につなげたいという狙いもあった。

センターでは、平成21年度から23年度の3年間にわたって企画提案事業として広場を運営し、平成24年度からは独自事業として継続している。

広場は、毎月第2・第4木曜日の10〜13時30分、昼食付きで開催されている。参加費用は1人当たり800円(税込)。参加できるのは、善通寺市、まんのう町、琴

平町在住の60歳以上の住民で、自分で会場まで来られる人を条件としている。

会場は、センターの事務所から車で約4分の場所にある香川県護国神社内の参集殿。調理場があり駐車場が広く、利用料が1回1000円(現在は2000円)と安価だったことから、当初から使用しているという。

広場の利用者は、会員や元会員、その友人が大半だ。利用者は約1時間30分にわたって講話を聞いた後、体操や手作りゲームなどを行ったりする。その後提供される就業会員手作りの昼食や、利用者同士の会話が楽しみの一つになっている。

会員20人が ローテーションで運営

広場運営の概要は、次の通りである。

●スタッフ

広場に関わっている会員は20人。各回の運営は、会場の設営、受付、司会、昼食の片付けを行う「広場スタッフ」2人と、昼食の調理や片付けを担当する「調理スタッフ」3人の計5人がローテーションで担当している。

●開催日の流れ

広場開催日、就業会員は8時30分から就業を開始する。広場スタッフはまず、会場にテーブルや椅子を並べる。利用者が来場すると受付を行い、開始時刻の10時になると司会進行、催しの指導などを行う。

調理スタッフはその日の調理スタッフリーダーが前日に用意した食材を使って調理し、配膳する。昼食時には、広場・調理スタッフ

も利用者と一緒に食事をとり、食後、利用者が退場すると、会場と調理場の後片付けをして14時に終了する。

●企画立案

広場では毎回、異なる企画を実施しており、その内容は毎年11月、年間計画を立てる際に決定する。催しに関わる広場スタッフは、自分が得意で利用者に指導できそうなことを企画・提案する。多いのは、絵手紙や折り紙、小物作りなど。提案が通れば、その企画を行う日は提案者が広場スタッフのリーダーを務め、利用者に教えることになっている。

●地域との連携

市町と連携して行う催しはセンター職員が企画している。令和5年度は、善通寺市高齢者課が「介護予防のお役立ち情報」と題して6月22日に約1時間の講話を実施。令和6年1月11日にもテーマを変えて行う予定だ。

また、消防署による火災予防に

関する講話、警察署による詐欺被害に遭わないための講話や寸劇が行われたこともある。

これらのほか、近隣の「幼保連携型認定こども園カナン子育てプラザ21」に通う3歳児クラスの園児たちとの交流は、利用者が楽しみにしている毎年恒例のイベントとなっている。

●昼食メニュー

昼食の献立は、事務局がたたき台を出してきたが、令和5年度からは作業負担を軽減するために2〜3年前のメニューを再度提供することとしている。献立で重視しているのは、季節感があること、2回続けて同じ料理を提供しないことなどである。

●就業内容

スタッフの就業時間は1回5・5時間。広場での就業はほぼボランティアだが、多少の配分金も支払われる。

ちなみに、広場で出たごみを自宅に持ち帰るごみ当番には、善通

寺市指定のゴミ袋が支給される。就業会員は同年代の人たちとの交流を楽しみにしているという。また、絵手紙や小物作りなど、自分の特技を披露できることにやりがいを感じている会員も少なくない。



「幼保連携型認定こども園カナン子育てプラザ21」の3歳児の訪問は、利用者の楽しみの一つになっている

昼食時は、利用者も配膳を手伝う



9月は、敬老の日にちなんで赤飯が提供された



このグループをはじめ、外部講師には基本的に報酬や交通費を支払わず、ティッシュや箱と食事を提供するのみである。それでも「地域に貢献したい」と駆けつけてくれているという。

佐藤事務局長は「広場は、高齢者の健康を増進し、生きがいを創出する活動として自治体から高く

評価されています。引きこもりがちな生活を送っている高齢者に、外出の機会を与える広場での就業がセンターの魅力になり、会員が大につながるよう尽力したい」と語った。

(井本君子)

事業運営状況

(平成30年度～令和4年度)

年度	会員数		計	粗入会率 %	就業実人員 (延人員) (人)	就業率 %	受注件数 件	契約金額 千円	公民比 %
	男	女							
平成30	652	413	1,065	4.4	975 (117,894)	91.5	5,417	649,656	27.8/72.2
令和元	661	408	1,069	4.5	979 (121,954)	91.6	5,212	693,152	31.8/68.2
2	636	408	1,044	4.4	931 (109,476)	89.2	4,989	631,919	34.5/65.5
3	629	382	1,011	4.3	887 (106,528)	87.7	5,104	618,137	35.6/64.4
4	598	399	997	4.3	864 (107,093)	86.7	4,797	617,860	37.0/63.0

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
 ※就業実人員は請負・委任と労働者派遣事業が対象
 ※就業実人員は令和2年度から労働者派遣事業の教育訓練受講を含む

だ。そのほかの利用者にも「いろいろな行事をしてきて楽しい」「自分と同年代のスタッフがいるから、話しやすい」と喜ばれているという。

佐藤事務局長は「コロナ禍で行動制限がある中でも、楽しみに来る人がいました。おかげで、広場の運営を維持することができました」と言う。

後継者の育成と
企画のマンネリ化が課題

広場は、今後も継続する方針だ。そのために今、取り組むべき課題はスタッフの育成である。

「女性会員活動委員会に新しく選任された会員の人たちに声を掛けたところ、多くの人がスタッフになつてくれました。それでも、

高齢でスタッフが勇退する人もいるので、就業会員の確保には常に苦勞しています」と香川副所長は言う。

事業運営も検討すべき事項だ。特に、催しのマンネリ化は課題に挙がっている。そこで令和5年度は会員の紹介で、香川県高松市のリコーダーと鍵盤ハーモニカ演奏をするグループによる演奏会が企画に組み込まれた。

令和5年4月に開催した初めての演奏会は好評で、「若い人が珍しい楽器を披露してくれてよかった」と新鮮味を感じた利用者もいたという。

この日、参加していた元会員の女性は「体を壊して会員を辞め、外出する機会が減ったので、広場に参加できてうれしい」と話してくれた。自宅から車を15分ほど運転して来場した女性は「独居なので、知人と会いたくて毎回参加している」と楽しみにしている様子

毎回異なる企画と
手作りランチが好評

センターでは、当初から広場利用者の募集を大々的には行っていない。募集告知はセンター広報誌上と、これまでの広場利用者40〜50人に催しの年間計画と年間予約票を毎年3月に郵送するのみだ。

ただし、既存の利用者が知人を連れてくることもあるため、予約票は2部同封している。

利用者は、多い時には30人を

超えたこともあるが、近年はコロナ禍の影響もあり、減少傾向にある。1回の利用者は、令和4年度が13〜25人、令和5年度は10〜25人(9月28日時点)となった。

同事業を担当する香川道代普通寺地区センター副所長は、「体調を崩して参加を見合わせている人が増えていますが、体調が回復すればまた来てくれると思うので、利用者数の減少についてはそれほど心配していません。むしろ利用者が1回30人を超すと、スタッフは対応に追われて大変なので、20人前後が理想的だと考えています」と話す。

取材で訪れた9月28日の利用者は16人。布や割り箸を使ってかかし作りを体験した後、昼食の時間まで、川柳を読んだり、手指体操などを行っていた。

体操終了後、調理スタッフが料理運び始めると、利用者が席を立てて配膳を手伝う姿が見られた。この日は、敬老の日のある9月開



取材日、利用者は割り箸と端切れを使ってかかし作りをしたり、川柳を読んだりして楽しんだ

催しにちなんで、赤飯をはじめ、チーズとハムの高野豆腐の挟み揚げ、スープ、ナスの中華風あえ物、サツマイモのケーキが提供された。

定食屋並みのボリュームだが、ほとんどの利用者が完食。食後、コーヒーを飲みながらしばらく会話をした後、利用者は、自分が使ったパイプ椅子や食器を片付けて会場を後にした。

この日、参加していた元会員の女性は「体を壊して会員を辞め、外出する機会が減ったので、広場に参加できてうれしい」と話してくれた。自宅から車を15分ほど運転して来場した女性は「独居なので、知人と会いたくて毎回参加している」と楽しみにしている様子